

単位

◆卒業所要単位数について

すべての科目には単位が定められており、科目を履修登録して授業に出席し、試験に合格すれば単位が修得できます。卒業するための最低必要単位数は124単位であり、原則として4年間で修得することが求められます。また、修得するための詳細規則がありますので十分注意してください。詳細規則は、「教育課程等の概要（授業科目一覧）」を確認してください。

◆単位制について

1単位は授業前後の主体的な学修(予習・復習等)を含めて四十五時間の学修を要する内容で構成することを標準としています。

本学部では、四十五時間の一時間の扱いを授業においては「45分」としてみなしています。

(例：講義の場合)

45分(一時間)×2×15回(15週) + 予習(三十時間) + 復習(三十時間) = 九十時間 = 2単位

◆留学等に基づく単位認定について

留学等により、内容によっては一定の基準に基づき、単位を認定できる場合があります。留学等に基づく単位認定の実施要領や詳細は、後期事前ガイダンス(9月下旬予定)にて説明予定です。

なお、本学部の長期留学における推奨期間は1年間とし、時期は【2年次夏季休暇以降】としています。ただし、それ以外の期間・時期では留学ができないということではありませんので、留学をしたいと考えたら教務課にご相談ください。

GPA制度

GPA (Grade Point Average) とは所定の換算ルールに基づき算出されたGP (Grade Point) の平均値を示したものです。単位制度における学生の「学習の質」を示す指標となり個々の学習状況をより明確にする目的とし本学部においても導入しています。

GPAは、本学部における進級判定、卒業判定、退学勧告等の様々な学内選考の指標の1つとしても扱います。また、留学する際に海外の受入大学が受入条件として設定していることが非常に多いため、注意が必要です。

指標	合格				再試験合格	不合格
評価	S	A	B	C	C	D
素点	100-90	89-80	79-70	69-60	60	59-0
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	1.0	0.0

具体的な計算方法

$$\frac{(4.0 \times S \text{の修得単位数}) + (3.0 \times A \text{の修得単位数}) + (2.0 \times B \text{の修得単位数}) + (1.0 \times C \text{の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数 (「不合格」の単位数を含む。)}}$$

* GPAの算出対象については「◆成績について」のページも併せて参照してください。
(認定科目、中止科目、履修中(成績保留)の科目は算定対象となりません。)

◆成績について

成績は、「試験の種類について」の項目にあるとおり、「定期試験」「授業内試験」「レポート試験」「授業内評価」などによって評価されます。成績評価と判定基準は以下の通りです。

なお、表内の「GP (Grade Point)」の活用方法については、「GPA制度について」の説明を参照してください。

合否	評価	点数換算等	GP	評価基準
合格	S	90～100	4.0	到達目標を十分に達成し、極めて優秀である。
	A	80～89	3.0	到達目標を十分に達成している。
	B	70～79	2.0	到達目標を相応に達成している。
	C	60～69	1.0	到達目標の最低限は満たしている。
	N	認定(777)	—	単位認定審査に基づき、合格であることを示したもの
不合格	D	59以下	0.0	到達目標の最低限の水準を満たしていない。
	F	受験資格無(666)	0.0	2/3以上の出席要件を満たさず受験資格がないことを示したもの
履修中	R	履修中(888)	—	現在、履修中であることを示したもの
中止	X	中止(999)	—	履修中止処理を行ったことを示したもの

※再試験に合格した場合は、60点とし、評価は「C」となる。

◆論文・レポートの書き方

高校までの学習とは異なり、大学においては数多くのレポートそして論文を作成する機会があります。大学入学前までにも小論文等のような与えられた問いに対して自由に短く答えるというような文章作成を経験していたかと思います。しかし、大学におけるレポートや論文はそれとは異なり、先行研究の検討、問題や仮説の設定、データ収集や調査およびそれらの整理、導かれた結果に基づく考察や結論、今後の展望などのポイントを押さえ、論理的かつ正確に記述していくことが求められます。

国際教養学部では論文やレポートを書くにあたり、その書き方や研究方法などをまとめた「論文・レポートの書き方」を掲載（学部生専用サイト）していますので、熟読し、論文・レポート執筆の際の参考にしてください。



ディプロマポリシー／学位授与の条件

国際教養学部では、本学の学是「仁」、理念「不断前進」、学風「三無主義」の精神の下に、「グローバル市民の育成」という教育目標に沿って設定されたカリキュラムを履修して所定の単位を修得するとともに、次の資質・能力を身に付けた者に対し、「学士（国際教養学）」の学位を授与します。

1. グローバル化が進む国際社会における人間とその社会的、文化的な営みを包括的に理解するため、自然と人間、生命と健康、人間と社会、世界と日本など国際教養に関わる広範な知識を習得し、それらを統合し、活用する能力
2. 自分とは異なる人間や文化を理解する心を涵養し、多様性を尊重し、寛容さを持って相互交流を図ることのできる能力
3. 母語そして外国語でのコミュニケーション能力を駆使し、多様な人々と繋がり、自らの考えを論理的に説明し、相互の関係を築く能力
4. グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化の違いを超えて活躍できる専門性（グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービス領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力

カリキュラムポリシー

国際教養学部では、学是「仁」、理念「不断前進」、学風「三無主義」の精神の下に、「グローバル市民」を育成する教育課程として、4年間にわたる国際教養教育を次のとおり編成します。

【導入期】

1. **基礎演習によるコミュニケーション能力の育成**
「プレゼンテーション」、「ファシリテーション」を体験することで、グローバル市民として必須なコミュニケーション能力の基盤を培います。
2. **国際的な広がりをもつリベラルアーツを醸成する基盤科目**
健康・医療などに関連する分野を含む幅広い教養及び外国語を、文系、理系にとらわれない基盤科目として学び、広く、深い教養と豊かな人間性・倫理観を培います。
3. **複言語主義的言語文化アプローチに基づく1、2年次の外国語教育**
「グローバル市民」として求められる外国語コミュニケーション能力を習得できるよう、「複言語主義」を参照しつつ、国際英語科目以外に、もう1つの外国語としてフランス語、スペイン語、中国語から1言語を履修します。授業では、異文化コミュニケーションを学び、体験的「言語文化アプローチ」を導入します。TOEFLなど国際標準の能力測定試験を用いて能力の向上を測定します。
4. **三領域への導入**
初年次に「国際教養概論～グローバル市民を目指して～」を履修し、グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービスという3つの主領域に触れ、領域間の関係性について学びます。

【形成期】

5. 三領域からなる展開科目

形成期に入る2年次には、各領域の概論科目を必修として履修し、各自の関心に応じて1領域を選択します。3年次以降は、三領域に関する科目を展開科目として設定します。グローバル社会領域では、持続可能な未来へ向けて、グローバル化をめぐる問題を学び、グローバルヘルスサービス領域では、身体、健康、生命などに関して日本や世界が抱えている諸課題を学び、そして異文化コミュニケーション領域では、異質な文化とのコミュニケーションが内包し、表象する課題について深く理解し、多文化/多言語社会の構築に寄与する方途を学びます。

6. 専門的な外国語教育と海外留学・研修

将来の進路を念頭に自主的に英語を学習できる「目的別英語科目」を揃え、また、フランス語、スペイン語、中国語では選択科目として上級コースを配置します。海外留学の道が開かれており、「海外研修プログラム」も課程外（一部は単位認定）の取り組みとして設定します。

【完成期】

7. 三領域をまたがる複眼的思考の醸成

学生が自ら選択する1領域に加え、他領域の授業科目についても領域横断的に履修することにより、複眼的思考を可能にする知見が得られるような教科編成とします。

8. 演習科目による専門性の強化

3、4年次の「グローバル市民演習」では各自が選択した領域に関連する課題について研究します。

9. 卒業論文の作成

各自が選択した領域に加え、必要に応じて他領域での学びも組み込みつつ、卒業論文を作成します。

キャリア形成における2つの柱

10. キャリア教育の単位化

入学直後の初年度から、学生の社会的・経済的自立を促すキャリア教育の充実にも重点を置き、キャリア科目をカリキュラムとして編成し、正規の科目として単位化します。

11. 教員免許（英語）を取得できる教職課程

指定された科目を履修し所定の単位を修得すれば、中学校及び高等学校教諭（英語）の1種免許を取得できます。

【学修方法】

12. 主体性を引き出すアクティブ・ラーニングの実践

学修方法として、少人数授業と協同学習を活用し、学生が主体的に関わるアクティブ・ラーニングを実践します。

13. 学問的誠実性（Academic Integrity）の涵養

学問的誠実性（Academic Integrity）を構成員全員が遵守し、盗用、剽窃などの学問的不正を行わないことの重要性を教科の中で徹底して教授します。

【学修成果の評価】

14. 学修成果の包括的評価

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価、コンピテンシーの項目群を学生が参照しつつ、定期的に自己のパフォーマンスを検証する主観的評価によって包括的に評価します。評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

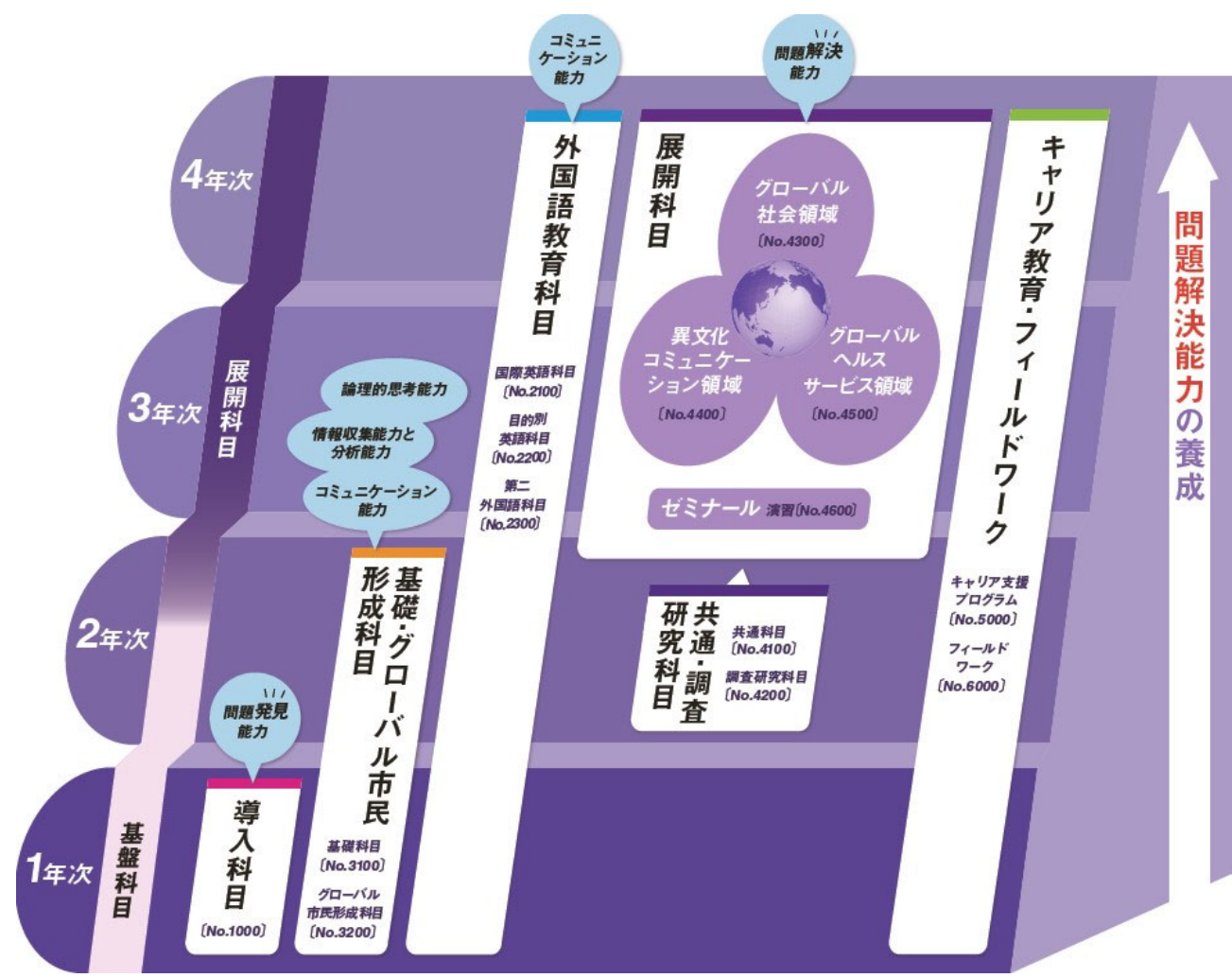
授業構成(ナンバリング)

グローバル化時代の国際社会に貢献する「グローバル市民 (Global Citizenship)」を養成するカリキュラム

学年	科目区分	外国語運用能力と多彩な教養を身に付けるカリキュラム				キャリア教育・フィールドワーク	
1 年次	基礎 科目	導入科目 [1000番台] <ul style="list-style-type: none"> ● 国際教養概論 ～グローバル市民を目指して～ ● 国際教養特別講義 (前半) ● 基礎演習 ● ★ 文芸表現法/論文・レポートの書き方 ★ スポーツ理論・実技Ⅰ ★ 野外スポーツ実習 (カヤック) 	基礎科目 [3100番台] 社会学概論 数学で考える 現代社会における物理学 法と社会 (日本国憲法) 心理学概論	グローバル市民形成科目 [3200番台] 日本近現代史 世界近現代史 コミュニケーション概論 英語文学概論 アメリカ文学・文化	国際英語科目 [2100番台] <ul style="list-style-type: none"> ● Interactive International English I ● Interactive International English II 	キャリア支援プログラム [5000番台] キャリアデザインⅠ (基礎)	
		導入科目 [1000番台] <ul style="list-style-type: none"> ● 国際教養特別講義 (後半) ● わかりやすい統計 ● ★ ICTリテラシー ● ★ スポーツ理論・実技Ⅱ ★ 野外スポーツ実習 (スキー) 	基礎科目 [3100番台] 哲学 音楽に親しむ 倫理学 現代日本経済論 経営学概論 科学史とイノベーション 化学とその応用 生きている仕組みⅠ	グローバル市民形成科目 [3200番台] 日本文化Ⅰ 日本文化Ⅱ 地域文化 (ヨーロッパ) 地域文化 (中国) 地域文化 (東南アジア) 世界の宗教問題	第二外国語科目<初級> [2300番台] <ul style="list-style-type: none"> ★ スペイン語初級Ⅰ・初級Ⅱ ★ スペイン語チャレンジクラス ★ フランス語初級Ⅰ・初級Ⅱ ★ フランス語チャレンジクラス ★ 中国語初級Ⅰ・初級Ⅱ ★ 中国語チャレンジクラス ★ 日本語初級Ⅰ・初級Ⅱ 	フィールドワーク [6000番台] ★ フィールドワーク	
		3領域共通		基礎科目 [3100番台] 生きている仕組みⅡ 論理学 カウンセリング論	グローバル市民形成科目 [3200番台] 日本文化Ⅲ 文化人類学 人権とジェンダー 情報社会と人間 比較日本社会論 健康と栄養・運動 日本文化Ⅳ イギリス文学・文化 公共と道徳	国際英語科目 [2100番台] <ul style="list-style-type: none"> ● English for Global Citizenship I ● English for Global Citizenship II 	キャリア支援プログラム [5000番台] キャリアデザインⅡ (応用)
2 年次	展開 科目	共通科目 [4100番台] <ul style="list-style-type: none"> ● グローバル社会概論 ● 異文化コミュニケーション概論 ● グローバルヘルスサービス概論 	調査研究科目 [4200番台] <ul style="list-style-type: none"> ● 社会調査法 ★ 量的調査演習 ★ 質的 (フィールド) 調査演習 	基礎科目 [3100番台] 生きている仕組みⅡ 論理学 カウンセリング論	国際英語科目 [2100番台] <ul style="list-style-type: none"> ● English for Global Citizenship I ● English for Global Citizenship II 	キャリア支援プログラム [5000番台] キャリアデザインⅡ (応用)	
		国際社会の全体像 (現状・諸課題) を理解し、解決策を探る3つの領域				第二外国語科目<中級> [2300番台] <ul style="list-style-type: none"> ★ スペイン語中級Ⅰ・中級Ⅱ ★ スペイン語チャレンジクラス ★ フランス語中級Ⅰ・中級Ⅱ ★ フランス語チャレンジクラス ★ 中国語中級Ⅰ・中級Ⅱ ★ 中国語チャレンジクラス ★ 日本語中級Ⅰ・中級Ⅱ 	フィールドワーク [6000番台] ★ フィールドワーク
3 年次	展開 科目	グローバル社会領域 [4300番台] 国際経済学 国際社会学 国際経営学 マーケティング グローバリゼーション論 グローバル人材論 国際関係論 スポーツ文化論 持続可能な社会 (サステナブル) 財務管理 組織心理学 地球環境論 世界の人権問題 メディア論 国際政治学 グローバル社会における人口問題 世界の食糧問題 ジャーナリズム論 国際紛争	異文化コミュニケーション領域 [4400番台] 行為としてのことば (語用論) ことばと社会 (社会言語学) 応用言語学 コミュニケーション (翻訳) コミュニケーション (通訳) 文化としての記号 (文化記号論) 異文化適応 非言語コミュニケーション 文化を学ぶ 英語翻訳実践 対人・組織コミュニケーション 文化と認知 英語通訳実践 言語と人間 (言語人類学)	グローバルヘルスサービス領域 [4500番台] 生命倫理と医療倫理 ライフサイクルの理解 ～誕生から発達・老化まで～ ヘルスプロモーション 病気の仕組み 疫学・統計 ヘルスコミュニケーション メンタルヘルス論 開発途上国における グローバルヘルス ヘルスサービスの経済と テクノロジーの進展と グローバルヘルス 健康教育とヘルスリテラシー 健康と情報管理・活用 持続可能な高福祉社会の特徴と課題 保健医療システム 医療者と医療機関の組織・職種・役割 国際看護論	ゼミナール (卒業論文) 演習 [4600番台] <ul style="list-style-type: none"> ★ グローバル市民演習 (基礎)Ⅰ ★ グローバル市民演習 (基礎)Ⅱ ★ グローバル市民演習 (発展)Ⅰ ★ グローバル市民演習 (発展)Ⅱ 	第二外国語科目<中級> [2300番台] <ul style="list-style-type: none"> ★ スペイン語中級Ⅰ・中級Ⅱ ★ フランス語中級Ⅰ・中級Ⅱ ★ 中国語中級Ⅰ・中級Ⅱ ★ 中国語チャレンジクラス ★ 日本語中級Ⅰ・中級Ⅱ 	フィールドワーク [6000番台] ★ フィールドワーク
		国際社会の全体像 (現状・諸課題) を理解し、解決策を探る3つの領域				第二外国語科目<上級> [2300番台] <ul style="list-style-type: none"> ★ スペイン語上級Ⅰ・上級Ⅱ ★ フランス語上級Ⅰ・上級Ⅱ ★ 中国語上級Ⅰ・上級Ⅱ 	キャリア支援プログラム [5000番台] グローバルキャリアデザインⅠ グローバルキャリアデザインⅡ
4 年次	展開 科目			目的別英語科目 [2200番台] 英語でグローバル社会を学ぶ 英語でグローバル社会を学ぶ 英語で異文化コミュニケーションを学ぶ 英語論文を書く 医療の英語 (基礎) 医療の英語 (応用) 第二言語の習得 Global Issues and Perspectives I. Japanese Culture II. Social Issues in Japan III. Health Issues in Japan IV. Global Issues			

<科目区分> ●: 必修科目 (34単位) / ★: 演習科目

基礎科目 [1000~3000番台]	導入科目 [1000番台]	外国語教育科目 [2000番台]	基礎・グローバル市民形成科目 [3000番台]
展開科目 [4000番台]	共通科目 [4100番台]	調査研究科目 [4200番台]	展開科目 (グローバル社会) [4300番台]
	展開科目 (異文化コミュニケーション) [4400番台]	展開科目 (グローバルヘルスサービス) [4500番台]	展開科目 (演習) [4600番台]
キャリア教育 [5000番台]			
フィールドワーク [6000番台]			



教育課程等の概要(授業科目一覧) 【2019年度以降の入学生用】

授業科目		配当年次	単位数・区分			備考
			必修	選択必修	選択	
導入科目	国際教養概論～グローバル市民を目指して～	1 前	2			
	国際教養特別講義	1 後	1			
	基礎演習	1 後	1			
	文章表現法／論文・レポートの書き方	1 前	2			
	わかりやすい統計	1 後	2			
	ICT リテラシー	1 後	2			
	スポーツ理論・実技 I	1 後			1	
	スポーツ理論・実技 II	1 後			1	
	野外スポーツ実習 (カヤック) ※実施は未定	1 前(集中)			1	
	野外スポーツ実習 (スキー) ※実施は未定	1 後(集中)			1	
基盤科目	国際英語科目					
	Interactive International English I	1 前	4			
	Interactive International English II	1 後	4			
	English for Global Citizenship I	2 前	4			
	English for Global Citizenship II	2 後	4			
外国語教育科目	目的別英語科目					
	英語でグローバルヘルスを学ぶ	3 前(前半)			1	履修条件 (目安) TOEFL-ITP500 以上 ただし、教職課程科目は対象外とする。
	英語でグローバル社会を学ぶ	3 前(前半)			1	
	英語で異文化コミュニケーションを学ぶ	3 後			2	
	英語論文を書く	3 前			2	
	医療の英語 (基礎)	3 前(集中)			2	
	医療の英語 (応用)	3 後			2	
	第二言語の習得	3 後			2	
	Global Issues and Perspectives I (Japanese Culture)	3 後(半期)			1	履修条件 (目安) TOEFL-ITP 500 以上 または TOEFL-iBT 60 以上
	Global Issues and Perspectives II (Social Issues in Japan)	3 前(半期)			1	
Global Issues and Perspectives III (Health Issues in Japan)	3 後(半期)			1		
Global Issues and Perspectives IV (Global Issues)	3 後(半期)			1		

授業科目			配当年次	単位数・区分			備考
				必修	選択必修	選択	
基盤科目	外国語教育科目	第二外国語科目	スペイン語初級Ⅰ	1 前		2	選択必修 (8単位以上) スペイン語、 フランス語、 または中国語 から 一言語を選択 する。
			スペイン語チャレンジクラス初級Ⅰ	1 前		1	
			スペイン語初級Ⅱ	1 後		2	
			スペイン語チャレンジクラス初級Ⅱ	1 後		1	
			スペイン語中級Ⅰ	2 前		2	
			スペイン語チャレンジクラス中級Ⅰ	2 前		1	
			スペイン語中級Ⅱ	2 後		2	
			スペイン語チャレンジクラス中級Ⅱ	2 後		1	
			スペイン語上級Ⅰ	3 前		2	
			スペイン語上級Ⅱ	3 後		2	
			フランス語初級Ⅰ	1 前		2	
			フランス語チャレンジクラス初級Ⅰ	1 前		1	
			フランス語初級Ⅱ	1 後		2	
			フランス語チャレンジクラス初級Ⅱ	1 後		1	
			フランス語中級Ⅰ	2 前		2	
			フランス語チャレンジクラス中級Ⅰ	2 前		1	
			フランス語中級Ⅱ	2 後		2	
			フランス語チャレンジクラス中級Ⅱ	2 後		1	
			フランス語上級Ⅰ	3 前		2	
			フランス語上級Ⅱ	3 後		2	
			中国語初級Ⅰ	1 前		2	
			中国語チャレンジクラス初級Ⅰ	1 前		1	
			中国語初級Ⅱ	1 後		2	
			中国語チャレンジクラス初級Ⅱ	1 後		1	
			中国語中級Ⅰ	2 前		2	
			中国語チャレンジクラス中級Ⅰ	2 前		1	
			中国語中級Ⅱ	2 後		2	
			中国語チャレンジクラス中級Ⅱ	2 後		1	
			中国語上級Ⅰ	3 前		2	
			中国語上級Ⅱ	3 後		2	
			日本語初級Ⅰ	1 前		2	
			日本語初級Ⅱ	1 後		2	
日本語中級Ⅰ	2 前		2				
日本語中級Ⅱ	2 後		2				

授業科目		配当年次	単位数・区分			備考	
			必修	選択必修	選択		
基礎科目	社会学概論	1 前			2	3 領域共通	
	数学で考える	1 前(前半)			1		
	現代社会における物理学	1 前(前半)			1		
	哲学	1 後			2	3 領域共通	
	音楽に親しむ	1 後			2		
	倫理学	1 後			2		
	現代日本経済論	1 後			2	GS/GHS	
	経営学概論	1 前			2	GS/GHS	
	法と社会 (日本国憲法)	1 前(集中)			2		
	心理学概論	1 前			2		
	科学史とイノベーション	1 後(前半)			1		
	化学とその応用	1 後(前半)			1		
	生きている仕組み I	1 後			2	GHS	
	生きている仕組み II	2 前			2	GHS	
	論理学	2 前			2		
カウンセリング論	2 前(前半)			1			
基盤科目	グローバル市民形成科目	日本近現代史	1 前			2	
		世界近現代史	1 前			2	
		コミュニケーション概論	1 後			2	3 領域共通
		英語文学概論	1 前			2	
		アメリカ文学・文化	1 前			2	
		日本文化 I	1 後			2	
		日本文化 II	1 後(前半)			1	
		日本文化 III	2 前			2	
		日本文化 IV	2 後			2	
		地域文化 (ヨーロッパ)	1 後			2	
		地域文化 (中国)	1 後(前半)			1	
		地域文化 (東南アジア)	1 後(後半)			1	
		世界の宗教問題	1 後			2	
		文化人類学	2 前			2	IC
		人権とジェンダー	2 前(集中)			2	
		情報社会と人間	2 前			2	
		比較日本社会論	2 前			2	
		健康と栄養・運動	2 前			2	
イギリス文学・文化	2 後			2			
公共と道徳	2 後			2			

基礎科目・グローバル市民形成科目全体から6単位以上

【3 領域 (GS/IC/GHS) の基盤となる推奨科目には備考欄に該当領域を表示】

授業科目		配当 年次	単位数・区分			備考	
			必修	選択必修	選択		
展開科目	共通	グローバル社会概論	2 前	2		左記の必修科目は所属領域問わず全員必修	
		異文化コミュニケーション概論	2 前	2			
		グローバルヘルスサービス概論	2 前	2			
	調査研究	社会調査法	2 前	2			
		量的調査演習	2 後				2
		質的（フィールド）調査演習	2 後				2
	グローバル社会領域(GS)	国際経済学	2 前			2	(選択必修) 自己が選択する領域から2単位以上
		国際社会学	2 前		2		
		国際経営学	2 前		2		
		マーケティング	2 後			2	
		グローバリゼーション論	2 後			2	
		グローバル人材論	2 後		2		
		国際関係論	2 後			2	
		スポーツ文化論	3 前			2	
		持続可能な社会（サステナビリティ）	3 前		2		
		財務管理	3 前			2	
		組織心理学	3 前			2	
		地球環境論	3 前			2	
		世界の人権問題	3 前(集中)			1	
		メディア論	3 後			2	
国際政治学		3 後			2		
グローバル社会における人口問題		3 後(前半)			1		
世界の食糧問題		3 後(前半)			1		
ジャーナリズム論	4 前			2			
国際紛争	4 前			2			
異文化コミュニケーション領域(IC)	行為としてのことば（語用論）	2 前		2			
	ことばと社会（社会言語学）	2 前		2			
	応用言語学	2 前			2		
	コミュニケーション（翻訳）	2 前			2		
	コミュニケーション（通訳）	2 前(集中)			2		
	文化としての記号(文化記号論)	2 後(集中)			2		
	異文化適応	2 後(集中)			2		
	非言語コミュニケーション	3 前			2		
	文化を訳す	3 前			2		
	英語翻訳実践	3 前			2		
	対人・組織コミュニケーション	3 後		2			
	文化と認知	3 後			2		
	英語通訳実践	3 後			2		
言語と人間（言語人類学）	3 後(集中)		2				

(展開科目・キャリア支援プログラム科目全体から) 必修・選択必修を含む50単位以上

授業科目		配当年次	単位数・区分			備考
			必修	選択必修	選択	
展開科目	グローバルヘルスサービス領域(GHS)	生命倫理と医療倫理	2 後		2	(選択必修) 自己が選択する領域から2単位以上
		ライフサイクルの理解～誕生から発達・老化まで～	2 後		2	
		ヘルスプロモーション	3 前		2	
		病気の仕組み	3 前		2	
		疫学・統計	3 前		2	
		ヘルスコミュニケーション	3 前		2	
		メンタルヘルス論	3 前		2	
		開発途上国におけるグローバルヘルス	3 前		2	
		ヘルスサービスと経済	3 前(集中)		1	
		テクノロジーの進展とグローバルヘルス	3 後(前半)		1	
		健康教育とヘルスリテラシー	3 後		2	
		健康と情報管理・活用	3 後		2	
		持続可能な高齢社会の特徴と課題	3 後		2	
		保健医療システム	3 前(半期)		1	
	医療サービス機関の組織・職種・役割	3 前(半期)		1		
	国際救護論	4 前(集中)		1		
	演習	グローバル市民演習 (基礎) I	3 前		2	卒業論文作成のため必修扱い
グローバル市民演習 (基礎) II		3 後		2		
グローバル市民演習 (発展) I		4 前		2		
グローバル市民演習 (発展) II		4 後		2		
キャリア支援プログラム科目	キャリアデザイン I (基礎)	1 前		2		
	キャリアデザイン II (応用)	2 前		2		
	グローバルキャリアデザイン I	3 前		2		
	グローバルキャリアデザイン II	3 後		2		
フィールドワーク	フィールドワーク	1・2・3・4 前・後		*	* 内容により1～4単位付与	
合 計					総単位 124 単位以上	

(展開科目・キャリア支援プログラム科目全体から)
必修・選択必修を含む50単位以上

[2023 年度開講] フィールドワーク (FW)	配当年次	備考欄
サウンドスケープ研究	1 通	
モノづくり中小企業の現場に学ぶ SDGs 経営	1 通	
ヘルスケアにおけるデータサイエンスとコラボレーション	1 通	
職業選択とインターンシップ	1 通	
ホスピタリティ実習	1 前(集中)	
基礎演習実践	1 後	基礎演習とセットで履修
起業力養成とビジネスプラン作成	1 後	
社会調査	3 通	

・シラバス照会で「フィールドワーク」と入力の上、検索することで一覧表示され詳細を確認することができます。

教科及び教科の指導法に関する科目(英語)

免許法施行規則の規定		本学開講授業科目			備考
科目		授業科目	配当年次	単位数	
教科に関する専門的事項	英語学	英語学Ⅰ	1 前	2	必修
		英語学Ⅱ	1 後	2	必修
		英語学Ⅲ	2 前	2	必修
		●第二言語の習得	3 後	2	必修
		英語音声学	2 前	2	必修
	英語文学	●英語文学概論	1 前	2	必修
		●アメリカ文学・文化	1 前	2	必修
		●イギリス文学・文化	2 後	2	必修
	英語コミュニケーション	●コミュニケーション概論	1 後	2	必修
		●コミュニケーション(翻訳)	2 前	2	必修
		●文化を訳す	3 前	2	必修
	異文化理解	●異文化コミュニケーション概論	2 前	2	必修
		●言語と人間(言語人類学)	3 後(集中)	2	必修
		●文化としての記号(文化記号論)	2 後(集中)	2	必修
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む)	英語科指導法Ⅰ	2 前(集中)	2	選択 ※中学校免許取得希望者は必修(中高両免希望者含む)	
	英語科指導法Ⅱ	2 後(集中)	2	選択 ※中学校免許取得希望者は必修(中高両免希望者含む)	
	英語科指導法Ⅲ	3 前	2	必修	
	英語科指導法Ⅳ	3 後	2	必修	

・中免のみ、中高両免希望者は36単位以上、高校免許のみ希望者は32単位以上を必修とする。

・下線付き科目は一般的包括的な内容の科目

(教育職員免許法施行規則第66条の6)

注) 教育職員免許状を取得しようとする者は、次の科目を取得しなければならない。

免許法施行規則の規定		本学開講授業科目			備考
科目	単位数	授業科目	配当年次	単位数	
日本国憲法	2	●法と社会(日本国憲法)	1 前(集中)	2	必修
体育	2	●スポーツ理論・実技Ⅰ	1 後	1	必修
		●スポーツ理論・実技Ⅱ	1 後	1	必修
外国語コミュニケーション	2	●英語で異文化コミュニケーションを学ぶ	3 後	2	必修
情報機器の操作	2	●ICTリテラシー	1 後	2	必修

授業科目名に「●」が付いているもの：

教育課程開講科目。卒業単位に含めることができる。また、上限単位数に含める。

授業科目名に「●」が付いていないもの：

卒業単位に含めることができない。また、上限単位数に含めない。

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則の規定		本学開講授業科目			備考	
科目	最低単位	授業科目	配当年次	単位数		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10 (10)	教育原理	1 後	2	必修
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職概論	1 後	2	必修
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		学校経営論	2 後	2	必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2 前	2	必修
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	2 後	2	必修
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2 前	2	必修
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10 (8)	道徳教育の理論と実践	3 前	2	必修 中学校免許取得希望者は必修(中高両免希望者含む)
	総合的な学習の時間の指導法		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2 後	2	必修
	特別活動の指導法		教育の方法と技術※2	3 前	2	必修
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）※1		生徒指導・進路指導論	2 前	2	必修
	生徒指導の理論及び方法		教育相談	3 前 (集中)	2	必修
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育相談	3 前 (集中)	2	必修
教育実践に関する科目	教育実習	5 (3)	教育実習事前・事後指導	3 後～ 4 後	1	必修
			教育実習 I	4 通	4	必修 中学校免許取得希望者は I を履修すること (中高両免希望者含む)
			教育実習 II	4 通	2	高校免許のみ取得希望者は II を履修すること
	教職実践演習	2 (2)	教職実践演習(中・高)	4 後	2	必修
中免のみ、中高両免許希望者は 29 単位以上、高校免許のみ希望者は 25 単位以上を必修とする。						

・最低単位の () なしは中免、 () 内は高校免許の数字を示す。

・中学校教諭 1 種免許状を取得する場合、介護等体験を必修とする。

※1 2022 年度入学生より、「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」を含む。

※2 2022 年度入学生より、「教育の方法と技術（情報通信技術の活用含む）」とする。

大学が独自に設定する科目

免許法施行規則の規定		本学開講授業科目			備考
科目	最低単位	授業科目	配当年次	単位数	
大学が独自に設定する科目		現代教育学	1 後	2	選択
		●公共と道徳	2 後	2	高校免許取得希望者は必修 (中高両免希望者含む)

・『大学が独自に設定する科目』の要件を満たすため、上記の科目の他、『教科及び教科の指導法に関する科目（英語）』『教育の基礎的理解に関する科目等』から、取得最低単位数を超える科目について、中学校免許取得希望の学生は 4 単位、高等学校免許取得希望の学生は 12 単位まで読み替える。

進級・卒業要件

進級および卒業のためには以下に記された条件を満たす必要があります。

◆進級要件（国際教養学部履修内規抜粋）

第20条 原則として Interactive International English I 及び II を修了することが、その後の2年次の必修英語履修の条件となる。

- 2 1年次終了時に、20単位以上修得しなければ、原則として2年次に進級できない。
- 3 入学後の2年間（休学期間を除く）で修得単位数が 20単位に満たない者は、卒業の見込みがない者として除籍されることがある。

（領域の選択）

第21条 学生は、原則として国際英語科目を修了し、かつ 44単位以上を修得しなければ自己が選択する領域を選択（ゼミナール入室を含む）できない。

- 2 2年次終了時に、44単位以上修得しなければ、原則として3年次に進級できない。

第22条 3年次終了時に、84単位以上修得しなければ、原則として4年次に進級できない。

「教職概論」や「教育原理」等の「教職課程のみの科目」の単位は、上記進級要件の単位数に含めることはできませんので注意してください。

◆卒業要件

以下のすべてを満たさなければ、卒業資格の認定対象になりません。

- ・4年間以上在学すること。
- ・すべての必修科目の単位を修得すること。
- ・第二外国語として一言語を選択し、その言語が指定する選択必修科目を8単位以上修得すること。
- ・「基礎科目」群および「グローバル市民形成科目」群全体から6単位以上を修得すること。
- ・「展開科目」群から自己が選択する領域の選択必修科目を2単位以上修得すること。
- ・「展開科目」群および「キャリア支援プログラム科目」群全体から必修・選択必修科目も含めて50単位以上を修得すること
- ・合計124単位以上を修得すること。